



令和 7 年度 安全衛生ニュース



令和 8 年 2 月発行
市長部局等安全衛生委員会
事務局：職員課労務担当
内線 2236

(市長部局等安全衛生委員会委員 職員課 椎谷・三島・坂本、会計課 芳賀、深沢保育園 河口)

職場巡視を行いました(本庁、発達支援室、腰越支所)

令和7年度は、5月に発達支援室、本庁舎2階・4階、7月に本庁舎1階、9月に本庁舎地下1階、11月に第3分庁舎・第6分庁舎、12月に腰越支所の職場巡視を行い、安全衛生上の課題について確認しました。また、12月には職場における職員の皆さん自身で気づきがあるよう、e-kanagawa を利用した職場定期点検を実施しています。職場の環境を整えることは健康状態の改善や仕事のストレス軽減、公務災害の防止が期待できるだけでなく、仕事の生産性が向上すると言われます。誰もが快適で、働きやすい職場を目指すため、職員、管理監督者を問わず全員が参加し取り組んでいくことが重要です。

【職場巡視】

職場巡視結果についての主なものは次のとおりです。

■ 地震対策について

《巡視結果》

- ・ キャビネットやスチール棚等の上に、保存箱等を積み上げている職場が散見されました。地震による揺れや積み上げた荷物を取る際など思わぬ拍子に落下の危険があり、大きな怪我につながる可能性があります。
- ・ 暑さ対策で扇風機、サーキュレーターの使用が増えています。高い場所に置いている職場も見られました。

《対策》

- ・ 重たい物は床や低い位置に置くのが基本です。特に棚の上やキャビネットの上に重いものを置くのは避けます。
- ・ 転倒防止ベルトや耐震マットなどの耐震固定具を使用してください。

■ 電源タップや配線処理について

《巡視結果》

- ・ 以前見られた無理なタコ足配線や電源タップの周りが不衛生になっているケースは減った印象です。引き続き、発火の危険を回避するために適切な管理が必要です。

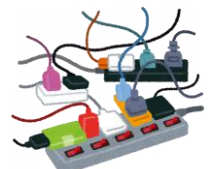
《対策》

- ・ 古くなった電源タップや配線は早めに交換し、コードにひび割れや損傷がないか定期的に確認します。
- ・ 電源タップ周辺のはこりを、乾いた布でこまめに取り除きます。濡れた布は使用しません。

頭上に重たいものを置くのは危険！



必ず固定を！



熱中症対策について

令和7年7月に、労働安全衛生規則の一部を改正する省令が施行され、各事業場等に対し、熱中症に対する対策が求められることになりました。対象となる作業の条件は以下のとおりです。

- 湿球黒球温度(WBGT)が 28 度以上又は気温が 31 度以上の場所で 1 時間以上又は 1 日当たり 4 時間を超えて行われることが見込まれる業務

- 1 事業者が熱中症による健康障害を防止するために講ずるべき体制整備(職場巡視やバディ制等)と関係作業員への周知が徹底されること。
- 2 事業者が熱中症による健康障害を防止するために講ずるべき措置の実施手順(緊急連絡網、緊急搬送先の連絡先・所在地、作業離脱、身体冷却、医療機関への搬送等)の作成と関係作業員への周知が徹底されること。

※※ desknet'sNEO>設備予約>職員課備品等 で空調服(ファン付きベスト)の貸出しを始めます ※※

公務災害・通勤災害状況報告

『公務災害』とは、公務中のけがや、公務が原因の病気のこと、『通勤災害』とは、勤務のために合理的な経路及び方法で移動したことに起因する災害をいいます。どちらも当事者からの申請を受け、地方公務員災害補償基金等が審査した上で、認定されることにより公務災害と認められるものとなります。次の表は、認定に至らないものも含めた令和7年12月までの発生数をまとめたものです。

原因	公務災害							通勤災害		合計
	ごみ収集	現場作業	消防活動 訓練	保育学童 学校	給食調理	事務作業	その他	交通事故	転倒事故 等	
R6年度	1	2	3	2	1	3	8	4	8	32
R7年度	0	3	3	3	0	2	6	3	10	30

《傾向》 転倒災害は全国的な課題であり、令和6年における神奈川県下の労働災害死傷者数 8,231 人のうち、2,173 人が転倒災害であったことが報告されています。これは、全体の 26.4%にあたります(『令和7年 グラフで見る神奈川県下における労働災害と健康の現状(令和6年労働災害のとりまとめ)』神奈川県労働局・各労働基準監督署)。鎌倉市においても、転倒事故は毎年報告されており、骨折などの大きな怪我につながっています。

《対策》 環境整備(段差解消、床を片付ける、明るさ確保、滑りにくい床)、身体機能の維持(筋トレ、バランス運動、正しい歩き方)、適切な履物の選択、栄養バランス(カルシウム、ビタミン D)を意識した生活習慣が重要です。これらを複合的に行うことで、転倒による骨折リスクを減らすことができます。

～腰痛予防～ 日頃から意識していきましょう

腰痛は日常生活や仕事のパフォーマンスに大きく影響します。職場巡視においても、産業医からパソコンのモニターの位置が低く、腰痛になりやすい姿勢を取っていると心配の声がありました。少しの心がけで、大きく改善できることがあります。職員の皆さまの健康を守るため、以下の腰痛予防ポイントをまとめましたのでぜひ参考にしてください。ご不明点や腰痛に関する相談があればお気軽にご相談ください。



- 正しい姿勢を心がけましょう。
- パソコン、モニターの高さ、椅子の高さを整えましょう(詳細は下段でまとめています)。
- 座る・立つ時は背筋を伸ばし、長時間同じ姿勢を避けましょう。
- 1時間に1回は立ち上がり、軽いストレッチや体操を行い、筋肉をほぐしましょう。
- 重い物は正しい持ち方で腰ではなく膝を使って持ち上げるようにしましょう。
- 適度な運動を習慣にして腹筋や背筋の筋力を鍛え、腰への負担を減らしましょう。

モニターの高さ設定のポイント

目の高さとモニターの上端を揃える

モニターの画面上端または中央が、目の高さのほぼ同じ位置になるように調整します。

→首を前後や上下に大きく動かさず、自然にまっすぐ見ることができる。

視線は画面の上から 10～20 度下を向くイメージ

画面全体が見やすく、首を下げすぎず、背中が丸まるのを防げます。

モニターと目の距離は約 50～70cm 程度にする

画面が近すぎると見上げたり顔を前に出したりして姿勢が悪くなる恐れがあります。

なぜ高さが重要か？

低すぎると… 頭が前に出て背中や腰が丸まる「猫背」になりやすい。

高すぎると… 首が上を向くため肩や首の筋肉に負担がかかる。

